



クラウドサービス活用の落とし穴

データ消失のリスクに対応する AvePoint Cloud Backup

はじめに

いまではビジネスに欠かせないクラウドサービス。メールやドキュメント管理、ビデオ会議システムやファイル共有ストレージなど、ビジネスを支えるクラウドソリューションは多岐にわたります。しかし、これら日常的に利用するクラウドサービス上に保管しているデータの状態やルールがどうなっているか、考えたことはあるでしょうか。

「クラウドサービス事業者の責任で管理しているだろう」と軽く考えていませんか。実はクラウド上のデータバックアップは利用者自身の責任で行わなくてはならないのです。

万が一データを失っては、どんな組織も業務に深刻な影響を及ぼすことになるでしょう。

このクラウドデータ活用の落とし穴ともいえるデータ消失のリスクについて解説し、解決策を探ります。

CONTENS

クラウド上に保管されている重要データが持つリスク

いつの間にかクラウド上に保管されている重要データ	3
クラウド上のデータは、「消える」	4
クラウド上のデータの管理責任は、「利用者」にある	5
データ損失の原因は、「ミス」がほとんど	6

クラウド上のデータを守る AvePoint Cloud Backup

AvePoint Cloud Backup ができること	8
1日最大4回、または6時間ごとのバックアップで業務影響を低減	9
ランサムウェアの攻撃、災害時にも完全な業務停止を回避	10

AvePoint Cloud Backup を活用するテクバンのサポート

テクバンの導入支援サービスの特長とは?	11
サイト構築後の支援にワクコレの活用を!	12

クラウド上のデータは、「消える」

意識されない保管期限

「Microsoft 365 上に保管していた去年のデータが消えている！ でも復元できるはず…」
Microsoft 365 では、データ保護のために高度なプログラムを提供していますが、ユーザー自身がデータ保護の責任を持たなければならない仕組みであることをご存じでしょうか。
Microsoft 365では、下記のような一定期間内であればデータの復旧が可能です。保存期限を過ぎるとデータは自動的に削除され、それ以降、復旧はできないのです。

SharePoint	ExchangeOnline	OneDrive
93日	14日 設定により最大30日	30日

上記の期限を超えると、データは削除され、リストアもできなくなります。

ランサムウェアの攻撃、災害時にも完全な業務停止を回避

Microsoft 365 へログインできなくてもデータエクスポートが可能

災害やランサムウェア攻撃などによって Microsoft 365 へアクセス不能になった場合、AvePoint Cloud Backup では一部のデータだけを緊急復旧させ、最低限の業務を続けることを可能にします。例えば、社員の連絡先や家族のデータにアクセスして、災害時の安否確認を行ったり、重要な顧客情報や取引先情報などのデータを取り出して別途保管したりすることができます。これにより、緊急時でも業務への影響を最小限に抑えることができます。

